『万葉集』古注釈

2007.05.11 更新

巻七・一二三九の歌について

07/1239H01 大海之　礒本由須理　立波之　将依念有　濱之浄奚久
07/1239H01 大海の礒もと揺り立つ波の寄せむと思へる浜の清けく
07/1239H01,おほうみの,いそもとゆすり,たつなみの,よせむとおもへる,はまのきよけく

※西本願寺本は、右訓「サヤケク」とし、左訓に「キヨ古ケク」と両訓を記載する。「さやけく」の訓は、江戸時代末の鹿持雅澄著『萬葉集古義』〔万葉百科全書〕に見える。

万葉集諸本（写本・版本）一覧

写本・版本名　時代　残存する巻　形態　類別　写真

桂本　平安中期　巻四の一部／巻四の断簡　巻子本　次点本　○|
藍紙本　平安中期　巻9の大部分／巻1・9・10・18の断簡　巻子本　次点本　○|
元暦校本　平安中期（巻六のみ鎌倉初期か）　巻1・2・4・6・7・9・10・12～14・17～20の約2700首　冊子本　次点本　○|
金沢本　平安後期　巻2の大部分・巻4の一部／巻3・4・6の断簡　冊子本　次点本　○|
天治本　平安後期　巻13全部・巻15の一部／巻2・10・14・15の断簡　巻子本　次点本　○|
尼崎本　平安末期か／鎌倉初期　巻16のほぼ全部／巻12の断簡　冊子本　次点本
嘉暦伝承本　鎌倉初期　巻11の大部分　冊子本　次点本

伝壬生隆祐筆本　鎌倉中期　巻9の前半　巻子本　次点本
春日本　鎌倉中期　巻5～10・13・14・17・19・20の各一部分　冊子本　次点本
伝冷泉為頼筆本　室町時代　巻1（但し1首欠）　冊子本　次点本
広瀬本　江戸時代　全巻　冊子本　次点本
類聚古集　平安末期　全巻にわたり約三八〇〇首　冊子本　次点本
古葉略類聚鈔　鎌倉初期　全巻にわたり約一九〇〇首　冊子本　次点本
紀州本　鎌倉末期　巻1～巻10　冊子本　次点本　○|
室町時代　巻11～巻20　冊子本　新点本／（文永）
西本願寺本　鎌倉後期／（巻12は補写）　全巻　冊子本　新点本／（文永）　○|
金沢文庫本　室町初期　巻1・9・19の全部／巻7・12～14の断簡　巻子本　新点本／（文永）
神宮文庫本　室町後期　全巻（但し巻1の3首・巻2の1首欠）　冊子本　新点本／（寛元）
大矢本　室町末期　全巻（但し巻12の1首・巻19の6首欠）　冊子本　新点本／（文永）
温故堂本　室町末期　全巻（但し巻10の一部・巻19の一首欠）　冊子本　新点本／（文永）
細井本　江戸初期　巻1～3、巻7～20　冊子本　新点本／（寛元）／室町末期　巻4～6（但し巻4の後半欠）　冊子本　次点本
京都大学本　江戸初期　全巻（但し巻19の1首欠）　冊子本　新点本／（文永）
活字無訓本　江戸初期　全巻（但し巻4の後半欠）　冊子本／木活字
細井本の系統
活字附訓本　江戸初期　全巻　冊子本／木活字　無訓本を改訂附訓
寛永版本　寛永二十年(一六四三)全巻　冊子本／整版　附訓本を整版

万葉集の主な注釈書一覧

書名	著者名	成立・刊行年代	注釈の対象
万葉集註釈	仙覚	文永六年(一二六九)	全巻から抄出
万葉集管見	下河辺長流	寛文年間(一六六一～一六七三)成	全巻から抄出
万葉拾穂抄	北村季吟	貞享三年(一六八六)成	
元禄三年(一六九〇)刊			全歌
万葉代匠記	契沖	貞享四年(一六八七)初稿本成	
元禄三年(一六九〇)精撰本成			全歌
万葉集僻案抄	荷田春満	享保年間(一七一六～一七三五)成	巻一
万葉集童蒙抄	荷田春満／荷田信名	記 享保年間(一七一六～一七三五)成	巻2～17
万葉考	賀茂真淵	宝暦十年(一七六〇)成	
明和五年(一七六八)刊			巻1・2・11・12・13・14
万葉集玉の小琴	本居宣長	安永八年(一七七九)成	
天保九年(一八三八)刊			巻1～4
万葉考槻落葉	荒木田久老	天明八年(一七八八)成	
寛政十年(一七九八)刊			巻3
万葉集略解	橘　千蔭	寛政十二年(一八〇〇)成	
寛政八年～文化九年(一八一二)刊			全歌
万葉集燈	富士谷御杖	文政五年(一八二二)成	巻1
万葉集攷証	岸本由豆流	文政十一年(一八二八)成	巻1～6
万葉集古義	鹿持雅澄	天保十三年(一八四二)成	全歌
万葉集桧嬬手	橘　守部	嘉永元年(一八四八)成	巻1～3途中
万葉集美夫君志	木村正辞	明治三十四年～四十四年	巻1・2
万葉集新考	井上通泰	大正四年～昭和二年	全歌
万葉集講義	山田孝雄	昭和三年～十二年	巻1～3

万葉集全釈	鴻巣盛広	昭和五年～十年	全歌
万葉集総釈	（各巻分担）	昭和十年～十一年	全歌
万葉集評釈	窪田空穂	昭和十八年～二十七年	
昭和四十一年～四十二年			補訂 全歌
万葉集全注釈	武田祐吉	昭和二十三年～二十五年	
昭和三十一年～三十二年			増訂 全歌
評釈万葉集	佐佐木信綱	昭和二十三年～二十九年	全歌
万葉集私注	土屋文明	昭和二十四年～三十一年	
昭和四十四年～四十五年			増補 全歌
万葉集(日本古典文学大系)	高木市之助／五味智英／大野　晋	昭和三十二年～三十七年	全歌
万葉集注釈	沢瀉久孝	昭和三十二年～三十七年／昭和四十五年	本文篇／昭和五十二年　索引篇 全歌
万葉集(日本古典文学全集)	小島憲之／木下正俊／佐竹昭広	昭和四十六年～五十年	全歌
万葉集(新潮日本古典集成)	青木生子／井手　至／伊藤　博／清水克彦／橋本四郎	昭和五十一年～五十九年	全歌
万葉集全注	伊藤　博／稲岡耕二ほか	昭和五十八年～（刊行中）	全歌
万葉集(新編日本古典文学全集)	小島憲之／木下正俊／東野治之	平成六年～八年	全歌
万葉集釈注	伊藤　博	平成七年～十一年	全歌
万葉集(新日本古典文学大系)	佐竹昭広／山田英雄／工藤力男／大谷雅夫／山崎福之	平成十一年～（刊行中）	全歌

※《参考ＨＰ》万葉集校本データベース
〔http://www.manyou.gr.jp/SMAN_1/〕

お名前
フリガナ
メールアドレス
性別　男性　　女性
郵便番号
ご住所　東京都
お電話番号
メッセージ　『万葉集』データベースでの、古典的訓読と現代の校本万葉集の訓読法とがどのようにいつ誰の手で変容してきているのか、具に知る手がかりとして、このＤＢに期待するものが大である。たとえば、「清」と「浄」は、「きよ」か「さや」なのか、常に得難い訓がそこには提示されている。